

あかりも俳句もこころをつなぐ

—私の体験的まちづくり— 〈其の一〉

甲斐 朋香(松山大学法学部助教授)



半年ほど前、大学の広報誌の取材を受けた。「わたしの宝物」というコーナーに、各学部順繰りに教員を登場させ、「ふだんの講義などでは窺えない素顔」に迫るという。

最初に訊かれたのは、私の専門(二応)である行政学のこと。師匠の言を借りれば「世直し・人助けのための学問」で、行政・営利部門・非営利部門がそれぞれ能力を発揮し、暮らしよい社会をつくっていくための方策について考察する。ゼミでは「協働型まちづくり」がテーマ。それぞれの分野で、様々な立場の人の努力でまちづくりが進められていることを実感してほしくて、よく学外に出かけたり、ゲストをお招きしたりしている。

「なるほど。ところでご趣味は？」
「はあ、旅行とか、読書とか。音楽を聴く

のも好きですし……」これではまるで見合いの釣書だ。親しみやすさや意外性がほしい、とインタビュアーも浮かぬ顔。前回その欄に登場したT先生はウチの花形教員の一人で、オタク道にも通じ、話が抜群に面白い。そんな人に匹敵するネタを期待されても困ってしまうのだが。

「福岡育ちで博多祇園山笠が大好き、『祝いめでた』も3番まで歌えますすけど……」
「あ、実は今、俳句にハマっています」
「俳句？ センセイって結構マジメな感じなんですかねえ」。うーむ、マジメ、か。我が俳句仲間の顔を思い浮かべつつ、撮影用の「宝物」を差し出す。俳人・夏井いつきさ



んに頂いた色紙と、句会用ノート。ノートは選者名と俳句、作者名がそれぞれ書き込めるよう野が引いてある特製品で、代金の一部は「俳句甲子園」への寄付となる。句会で選んだ句や選者・作者(ヘンテコ、もとい個人的な俳号が多い)、ことばの断片などを書き殴ったそれを、インタ

ビュアーはばらばらめくり、「あ、それほどマジメってわけでもなさそうですね」と少し表情を緩めた。
そう、俳句は楽しい。私たちの句会は殊に不マジメで、呑み会つき句会、いや、むしろ句会つき呑み会に近い。作者を最後まで伏せておくのが句会のルールで、

筆跡で判別できないよう、参加者から句を集めてシャッフルし、清書しなおした用紙を回して選句をする。誰がつくったかにとらわれず、句それ自体を自らの目で評価することが重要なのだ。句を選んだら、次は選評。様々な解釈が飛び出すが、作者は最後まで傾聴しなければならぬ。作者の意図とのズレが、却って句の世界を広げることもある。とはいえ堅い感じもするが、句と作者のイメージの落差にずっこけたり、「ワタシはアナタの句を選んだのに、アナタは……なんて「片想い」に臍を嘔んだり、「○○さんとワタシ、同じ句を選んてる！」とほくそ笑んだりするのも、「座の文芸」ならではの愉しみ。一種の擬制である

「俳号」という仕掛けも、実生活での肩書きを忘れ、人と人との対等な付き合いを促すのに効果的といえる。

最近熱が高じて、俳句とまちづくりとを強引に結びつけた企画を時々立てる。たとえばゼミでは一度、見学先での発見を俳句に仕立てさせてみたが、これは「協働型まちづくり」で多用される「住民参加型ワークショップ」の



変型バージョンのつもり。私の所属する中間支援系NPOでも、意見集約の技法を学んだり、発想力や観察力、表現力を鍛えたりする狙いから、句会体験ワークショップを開いた。

私が今、個人的に注目しているのは、俳人たちのネットワークとフットワーク。私の俳句仲間も年齢も職業も特技も実に多種多様、揺り籠から墓場まで、仲間内で面倒を見てもええそうな勢いだ。「身内」が関わっているイベントでもあれば駆けつけ、お手伝いも厭わない。「俳句甲子園」も然り、内子・五十崎の風揚げ大会も然り。好奇心旺盛にまちを動き回り、観察し、初対面の人も打ち解けて、

たつぷり楽しんで帰ってくる。まちにお金も落としてくれるというおまけつきで、頼もしいまちの応援団になってくれるような存在なのである。

5月に「俳句集団・いつき組」と一緒に企画した「俳句チャンピオン大会」なるイベントも、そんな密やかな期待を裏切らないものとなった。主に公共交通機関を使って松山の主要観光スポット

をめぐるつつ、俳句の腕前を（遊び半分に）競うという

企画だったが、県内外から集まった参加者は、子供から大人まで総勢70名

強。事後アンケートでは、松山在住歴の長い人からも、「○○は初めて、久しぶりだった」「いっぺんさん市」や「湯上がり市」などのイベントは今まで知りもしなかった。「ふだん通っている場所でも句をつくるつもりで歩いてみたら新鮮な発見がある」といった声も多く寄せられた。気を好くして、7月には、大学の生涯学習講座受講生の希望者と俳句仲間との混成チームで、NPO法人QACCOA主催の「三津浜アートフェスティバル」へ。森家や木村家など、風情ある古民家が並ぶ三津浜のまち歩きを堪能した。

12月は、私が世話人をして「まつやま灯明ウォッチング」というイベントにも、俳句仲間が協力をしてくれるはずだ。このお話はまた次回！

